

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

＜先週の説教から＞

『詩編 48』—私たちはあなたの慈しみを
思い描く』 武田真治牧師

詩編 48:1~15 ヨハネ黙示録 21:1~4, 22~23

この詩編は、そのト書き（＝英語ではタイトルと言われます）に「歌、賛歌」とありますように、その当時に神様の住まいと見做されていたエルサレム神殿へと向かう《巡礼の旅》を為している人達の思いを歌った「歌」だと読むと、この詩編の言葉がよく分かって来ると思います。

当時、一年を通してエルサレム神殿で持たれるお祭りの中で、特に大事だとされた“三大祝祭（＝除酵祭、七週の祭り、仮庵祭）”には、近隣に住むイスラエルの民は参列するようにと律法で定められていました。それらのお祭りに村や町単位で人を集め一緒にエルサレムに向かう旅を為したのでした。それが《巡礼》でした（12歳のイエス様のように）。

そのエルサレムに近づくと、先ず見えて来るものが「神の都にある聖なる山、シオンの山」でした。それがようやく見えて来たことを「高く美しく、全地の喜び」と歌うのです。更にもっと近づくと「力ある王の都（＝エルサレム）」が見えてきます。そしてその「城郭、砦」に改めて目にして、素晴らしいと思うのだと（＝「砦の塔に、神は御自らを示される」）。その城壁や塔を見た時に、昔の故事を思い出すと。それが「見よ、王たちは時を定め、共に進んで来た。彼らは（この城壁を見て、ひるみ、恐怖に陥って逃げ去った。」のだと。その堅固な守りを讃美しているのです。そして、いよいよその神殿を讃美しながら、その中へと入って行くのです。

ただ、もしこの詩編がその都の美しさや神殿の城壁の堅固さだけを讃美するだけの歌であったなら、後の世代まで歌われたり、『詩編』の中に採用されることはなかったでしょう。この巡礼者はその神殿の中心で「神よ、神殿にあってわたしたちは、あなたの慈しみを思い描く。」と告白しています。この堅固な城壁や砦の塔に「神は御自らを示され」ておられるのだと！つまり、いくら人間が神殿を高く、厚くしたとしても“神様の御守り”がなかったならば、敵国が攻めて来た時にひとたまりもなくなるのだと。こうして守られていること

に“神様の慈しみ（ヘセド＝愛）”がいかに溢れているかを感じると歌っているのです。ここに“神様への信仰”が表現されていると言い得るのです。だからこそ、この詩編は人々から支持され、歌われて来て『詩編』の中に加えられたのです！

この詩編の最後は「この神は世々限りなくわたしたちの神、死を越えて、わたしたちを導いて行かれる。」と終わっています。この「死を越えて（アルムーツ）」という言葉は、時には「死に至るまで」と改変を受けて来たユダヤ教での歴史もあるのですが、私たちキリスト者にとっては、この言葉こそ“復活”を預言している言葉であり、更にはこの都とは「天のエルサレム（＝ヨハネ黙示録 21 章）」をも用意して下さっている“神様の慈しみ”を希望することが赦されている言葉であると私たちは受け留められる、素晴らしい歌ではないでしょうか？ 原文がまさにそうなっているのですから！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 1月8日（水）20:00
II. 1月9日（木）10:30

聖書研究：ローマの信徒への手紙

祈禱主題：成人祝福・埼玉地区新年合同礼拝を覚えて

担当者：（水）藤林 （木）長村

祈りに覚える人：坂田さん 佐々木さん

【教勢報告】

主日礼拝 男 17 女 42 計 59

祈禱会 I. II. 休会

日曜学校 幼稚科 5 小中 8 計 13

元日礼拝 男 13 女 21 計 34

【次週礼拝】 1月12日（日）

聖書：イザヤ書 49:5~9A

ルカによる福音書 4:40~44

説教：「ルカ 4—神の国の福音を！」

武田真治牧師

讃美歌：204(1)、32、431、58、392、

【次週当番表】 28(1)

司式：齋藤長老 奏楽：須田 礼拝：金刺長老

献金：吉澤 山中 受付：鈴木 橋本

会堂準備：飯島 岡本 金刺 中村

森本

看板：岩佐 週報：金刺 お花：茨木

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後：・成人祝福 ・牧師と語る会 ・お茶の会

・壮年/婦人/ダビデ 各会

1/13 埼玉地区新年合同礼拝 10:30~

（於：聖学院大学チャペル）

2025年 1月 5日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>